

とみた児童クラブ第3 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（岡山大学教育推進機構）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2024年2月20日	
項目	評価担当者からのコメント	評価
共通評価基準	継続率の高さを一つのクラブの質的な評価指標として位置付け、100%を実際に目指す取組は高く評価できる。入所時の保護者に対する様々なインフォームド・コンセントは入所のしおりを活用できているため効率の良さもあった。子どもの活動については、できるだけ子どもが主体的に過ごせるように努力していることがうかがえる。クラブ全体の統括者との系統性も高いため、支援単位だけでなく、クラブ全体の組織的な厚みを可能としていることも評価できる。	A
内容評価基準 項目1～8	子どもたちが快適に過ごせるような空間づくりは、施設内での工夫もさることながら、学校施設内にある利点を生かすこともできている。学校施設内での様々な遊び場所の活用できたり図書室から本を譲り受けていたりといった連携は、学校内にあるクラブの強みを生かしていると評価できる。また、子どもの主体性を重視した日常的なかかわりについても信頼できる。	A
内容評価 項目9～16	配慮の必要な子どもについての情報も積極的に共有されていて、個々の子どもに対するセーフティネットを職員間で構築できていることがうかがえる。また、個々の子どもへの支援計画についても検討されているため、保護者も安心感を抱きやすいと想定できる。子どもたちの姿をエピソードベースで定期的な通信として発行している点も高く評価できる。	A
内容評価 項目17～20	子どもたちが主体的に過ごすことができるようにするというのは、決して簡単なことではなく、ともすれば単なる放任としてとらえられてしまうこともある。しかしながら、ここでは、一人ひとりの子どもの記録も丁寧に行い、単なる観察にとどまるのではなく、次の支援に歩を進めることができている。その上で、実践を記録し、事例の検討なども集団的に取り組んでいる点も高く評価できた。	A
総 評	子どもに対するケアの視点を大切にしようという姿勢が強く伝わってきた。その姿勢をしっかりと体现するために個人記録や実践記録や通信などを蓄積している点からも、信頼度の高さもうかがえた。保護者との連携も日常的に行い、さらには保護者会による組織的な連携もできおり、保護者からの安心感や信頼感も得られていると思われた。このような確かな取組に対して、今後も自信を持って取り組んでほしい。また、継続率という指標はわかりやすい一方で、数値にとらわれ過ぎてしまう危険性もあるため、その点については留意してほしい。	

ながおキッ Z 児童クラブ第 1 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（岡山大学教育推進機構）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2024年 2 月 20日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	これまでの経験と実績に裏付けられた仕組が構築されていて、安定した運営になっていることがうかがえる。保護者へのしおり、職員への就業規則などによって基本方針などが共有されていたり、職員間の主任会議が定例化されていたり、仕組みとして確立している点は高く評価できる。また、子どもたちに対しても「子ども会議」の開催など、主体的な生活の場になれるような努力ができています。そのほかにも、危機管理についても体制が整っている点はさらなる安心感を与えていると思われる。職員の中で地域の役として積極的に関わっている点も評価が高い。	A
内容評価基準 項目1～8	環境としては、静と動のスペース分けをしていたり、ロッカーなどにも工夫を凝らしていたりと環境構成に注力している点がうかがえた。また、基本的な生活習慣の習得への働きかけや子どもたちの遊びに対するかわり方についても意識すべきことが徹底されていることが分かる。さらに、行事などについても、子どもたちの話し合いを重視するなど、日常生活以外にも子どもを主体としている姿勢がわかる。	A
内容評価 項目 9～16	配慮を必要とする子どもへの対応方針や日常のおやつへの配慮、食に伴う事故に対する未然の対策、危機管理などについては、基本的なことがきっちりと押さえられており、安心感を強く持つことができた。また、保護者組織による活動を生かして、保護者間の関係構築を図っている点については、最も重要なセーフティネットの構築につながっているといえる。	A
内容評価 項目 17～20	育成支援の計画については、複数の支援単位があることも鑑みて、汎用性の高い計画になっている点は特徴的といえる。そのため、無理なくかつ横断的に活用することができていることがうかがえた。併せて、毎月の事例検討なども職員間で定期的に行っていて、育成支援計画を遂行・改善するための仕組みも構築できている点が高く評価できる。	A
総 評	ながおキッ Z 児童クラブ全体の基盤によって各施設が安定的に運営されていることがわかる。その上で、育成支援計画の汎用性の高さや各支援単位における個々の支援員の特技や特性の活用など、柔軟にそれぞれの支援単位のよさが発揮されている点についても高評価につながる。同時に、子どもたちにはやりたいことを実現させていきたいという姿勢が明確であり、普段の遊びに加えて、食事作りや班活動にもその姿勢があらわれている。また、記録についても蓄積があり、計画との連動を模索していたが、今後も記録と計画の連動については工夫を凝らし続けていただきたい。保護者会の在り方についても、現状に適した在り方を模索していただきたい。	

中島学童保育 1 組 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（岡山大学教育推進機構）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2024年 2 月 20日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	保護者に対する周知については入所のしおりや事前説明会によって図られているが、さらに親子面談も活用できている。職員の働き方としては、子育て中の職員に対する在宅ワークの制度も積極的に活用されていることで、安心して子育てと仕事の両立が図られていることがわかった。地域との連携については、地域行事や子ども会への参加などにも積極的であることも評価できる。	A
内容評価基準 項目1～8	定期的な通信の発行や職員間の事前及び事後ミーティングの実施、小学校との懇談の機会の創出など、育成支援に含まれる職務内容がしっかりと遂行されている。併せて、子ども会議などから子どもが主体的に生活できるように配慮されていることもわかる。日々の子どもに対するかかわりもきめ細かな配慮がされていることがうかがえ、安心感のある育成支援になっている。	A
内容評価 項目 9～16	配慮を必要とする子どもへの対応方針や日常的なおやつへの配慮、食に伴う事故に対する未然の対策、危機管理などについては、基本的なことがきっちりと押さえられており、安心感を強く持つことができた。保護者会についても、年間3回の定期的な開催や保護者会行事の開催など、保護者同士が交流できる機会を積極的に設けられている点も高く評価できる。	A
内容評価 項目 17～20	詳細な育成支援計画が作成されており、個々の子どもの実態に応じた個別の支援目標も設定できており、確かな育成支援が体现できているという印象を持つことができた。さらに、個々の保護者に向けてハッピーシートという個人記録に基づいた成長・変化の共有シートを導入しており、個々の子どもについて職員間だけにとどめるのではなく、保護者とも詳しく共有できている点が特徴的である。	A
総 評	上述したハッピーシートの取組は、保護者と共有するためのツールとしても有用だが、一人ひとりの子どもの見取りを記録し、職員間で共有して、常に支援の目標や計画と照らし合わせながら、成長・変化を把握することができている。従って、パート職員も含めて支援員たちのスキルアップにも効果を発揮していることが期待できる。育成支援計画も詳細なものができており、定期的な振り返りも行えていることから、計画を意識した育成支援ができていると思われる。今後は、6期構成のため、6回の振り返りができれば、より一層計画を活用できると思われる。また、同学区にある公設児童クラブと円滑な関係性を構築できている点も評価したいところである。	

二福のびのび児童クラブ 1 組 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（岡山大学教育推進機構）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実 施 日	2024年 2 月 20日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	保護者への入所時の説明から地域の老人クラブとの連携に到るまで、基本的なことは徹底されていると評価できるが、二福のびのびクラブ全体の組織的な基盤に依拠した状態であることがうかがえる。今後、ますます支援単位として自立していきながら、必要に応じて全体の組織的な基盤や所長に委ねていく体制づくりができていけばよいと思われる。	B
内容評価基準 項目1～8	子どもたちの活動スペースに静と動の区切りを設けるなどの配慮がされている。その中で、子どもたちが自由に遊べるように努力されており、特には日常的な場面においても行事においても、子ども同士の話し合いや教え合いができるようなサポートを重視している点が評価できる。併せて、職員間の日々のミーティングをすることで、子どもの様子や保護者とのやりとりなどが丁寧に共有できている点も評価できる。	A
内容評価 項目 9～16	子どものおやつは、自分たちが好きな時間に食べられるようにしており、遊びだけでなくおやつもまた主体性を重んじていることがわかる。また、障害のある子どもやアレルギーのある子どもに対して、かなり丁寧に一人ひとりを把握しようとしていることがうかがえる。この一人ひとりの把握のためには、ケガの記録も含めて記録への真摯な取組が支えになっていると考えられる。	A
内容評価 項目 17～20	日常的な個人記録も丁寧に行われている。また、育成支援計画についても支援単位間で汎用的に活用できるものになっているため活用可能性が高い。そのため、記録と計画との連動もしやすくなっていることがうかがえた。その一つの成果として、記録に基づいた事例検討会が行われていると思われる。さらに、保護者へのアセスメントシートによって、子どもの成長・変化を保護者と共有できる点も高く評価できる。	A
総 評	基本的な内容は誠実に押さえており、日常的に着実に育成支援が行われていることが伝わってきた。その上で、就任1年目にある主任の今後の成長を期待していきたい。支援員との情報共有や保護者からの苦情対応などは一朝一夕にできるものではないため、ぜひ継続することで経験を蓄積していただきたい。特に、育成支援中の支援員間の連携については、できるだけその場で立ち話感覚の情報共有ができるように職員全員が意識できればよいのではないだろうか。その上で、当クラブは、今後も育成支援計画を活用しながら、現在、すでに取組んでいる記録や事例検討などを踏まえて、継続的な質の向上が可能なクラブであると評価している。	